

講義名	対)観光学原論			
担当教員	辻本 千春			
開講期・曜日・時限	前期 火曜日 4時限	授業形態	講義	
履修開始年次	1年生	単位数	2	備考

主題と概要

観光のあり方が変わってきています。1990年代のインターネットの登場により、それまでのマスツーリズムの形態が大きく変わり、少人数、グループ主体の観光形態が多くなりました。さらに観光目的が物見登山的な観光から目的を明確にした観光、いわゆるニューツーリズムに置き換わってきています。国内観光だけではなく国際観光も変化し、特にインバウンドの目覚ましい伸びがあり、その点でも観光の変化が大きくなっています。

この授業では、大きく4つの切り、観光学の基礎、観光産業論、観光政策論、応用観光論、で観光の定義や概念を理解しながら、急速に変わりつつある観光関連産業や旅行事業の変化の背景やそのマネジメントについて具体的に学びます。

到達目標

a. 知識・理解 ・観光の定義について説明できるようになる。
・観光の歴史的な変遷を具体的に説明できることになる。

b. 思考・判断 ・観光事業の仕組みや経営構造を把握し理解することができるようになる。

c. 関心・意欲 ・観光、国際観光あるいは観光関連産業を自分のキャリアと関連して考えることができるようになる。

d. 技能・技術 ・観光産業に進む場合は、資格取得に挑戦することができるようになる。

e. その他 ・学んだマネジメントやマーケティング手法を他の業種や業態に当てはめることができるようになる。

提出課題

- ・毎回、授業内容の課題について回答を書いてもらいます。
- ・授業内容から、あるいは自分の考えを整理してまとめて提出してください。
- ・ポータルを必ず確認してください。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバック

- ・課題の回答から読み取れる皆さんの疑問や誤った理解に対して、次週の授業のはじめに解説・修正します。
- ・質問欄に書かれた質問に対する答えも回答します。

評価の基準

・毎回の課題、レポート提出状況40%、期末テスト(または期末レポート)60%とし、総合的に判断します。授業回数の3分の1(5回)以上課題、レポート提出がない場合は単位は取得できません。

履修にあたっての注意・助言他

- ・授業で学ぶ基本は重要ですが、観光に関する情報は日々変化しますので、常に新聞等で新しい観光の情報も入手してください。
- ・基本は教科書に沿って授業を進めます。

教科書	.入門観光学.	竹内正人ほか2名	ミネルヴァ書房	2800	ISBN978-4-623-077632

プリント資料及び参考文献

- ・必要に応じてプリントをポータルに添付します。
- ・参考文献・・・必要があれば紹介します。

授業計画

第1回 はじめに(授業計画、授業の目的、進め方など)観光とは
観光の歴史

第2回 世界と日本の観光の歴史

第3回 観光と旅行者の行動
観光対象と観光行動

第4回 観光と産業・経済
観光産業の定義と経済効果

第5回 旅行産業
旅行産業の特徴と現状、展望

第6回 宿泊産業
宿泊産業の現状と展開

第7回 運輸産業
運輸産業と観光

第8回 テーマパーク産業
テーマパークの歴史とこれから

第9回 観光産業とホスピタリティー
サービスとホスピタリティー

第10回 観光立国と国際観光
観光政策と訪日観光

第11回 諸外国の観光政策
シンガポールの観光政策

第12回 地域観光とまちづくり
観光と地域振興

第13回 ニューツーリズムと観光
第14回 観光のマネジメント
観光地経営とは

第15回 これからの観光 まとめ

注：感染症または運営稼働者に指定され、一時的に通学が禁止される学生は「オンデマンド授業」に移行しない。
また、先開講に關しては、学内で実施する予定であるが、感染状況によっては学内で実施できない可能性もあるので、講義連絡や大学からの指示を間違えないようにする。

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A・L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

- ・授業で学んだ内容のポイントを整理してまとめてください。2時間程度
- ・予習として、次回の授業範囲をよく読み内容を整理してください。2時間程度
- ・観光に関する情報は日々新しくなっていますので、教科書以外にも新聞やメディアのニュースを積極的に読んで入手してください。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

この授業は観光についての理論的な学びと観光産業についての学びを含んでいる。国内観光だけではなく国際観光も変化し、特にインバウンドの目覚ましい伸びがあり、その点でも観光の変化が大きくなっている。この授業では、大きく4つの切り、観光学の基礎、観光産業論、観光政策論、応用観光論、で観光の定義や概念を理解しながら、急速に変わりつつある観光関連産業や旅行事業の変化の背景やそのマネジメントについて具体的に学ぶことができる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

実務経験あり

- ・近畿日本ツーリスト株式会社において、主に海外旅行プログラムのソリューション営業、つまり個人旅行ではなく組織や団体の問題を解決するための企画を約30年間担当しました。その間に身に付けた知識や情報、その入手法を含めて、旅行企画や観光、観光事業における具体的な内容を講義するとともに、退社後に大学院で学んだ「観光による地域活性化」について一補に考えます。また、タイのバンコクでの4年間の駐在経験をもとに、海外で働くことの意義や海外から日本を見ることの大切さも伝えます。

備考

- ・この科目は「観光の基礎を学ぶ」講義です。専門科目の基礎となりますので、理解に努めてください。また、観光関連産業への進路を考えている学生にとっては観光全体を学べるよい機会です。